

持続可能なコンパクト・シティへの

都市づくりの基本方向を質的に転換することが必要です。

従来の都市づくりの枠組みだけでは対応できない今日的な課題に対して新しい都市づくりの観点が求められています。基礎的な都市基盤の拡充整備に主眼を置いたこれまでの都市づくりの進め方を、右の4つの観点を重視した新しい都市づくりへと質的に転換することが必要です。

新しい
4つの観点

持続可能な都市づくりに必要なのは「2つの視点」と共通キーワード「コンパクト」です。

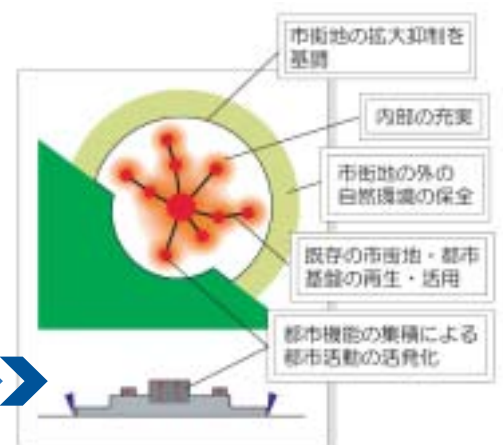
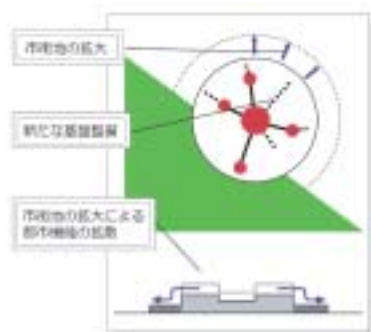
コンパクト：市街地の規模を小さくする意味ではありません。都市全体及び身近な地域の両面で都市機能のまとまりが保たれるとともに7ページからの「都市づくりの原則」で掘り下げた考え方が実現されることを示す言葉として用いています。

都市全体の視点から

都市全体が機能的なまとまりを保ち、魅力と活力の向上が図られることを重視します。そのため、拡大の抑制を基調とした市街地において、地下鉄沿線等の有効利用を誘導するなど、既存の市街地、都市基盤の再生・活用を図るとともに、市街地の外の自然環境を保全します。

これまでの....

新たな市街地を郊外に整備・拡大しながら都市の動向・課題に対応



赤い矢印は必ずしも建築物の高層化ではなく、機能の集積度、都市活動の活発さを表しています。

これからは....

市街地の拡大抑制を基調とし、既存都市基盤を有効に活用しながら魅力と活力〔質〕を向上